

FOR ADULT ONLY



手
陽炎

逢いたい・・・

あの人に・・・

私を助けてくれたあの人…けれど名前も知らない…

あの時私はなにもできないただの少女だった…

薬草を取りにでかけて日もそろそろ暮れる頃私は家路を急いだ。

見慣れた町が見え始めて今晚の献立を考えているところに

断末魔のような女性の悲鳴が聞こえ

その声に急に現実に引き戻されてやっとあたりの様子がおかしい事に気づいた。

あちこちから聞こえる魔法だろうと思われる破裂音と

激しく剣と剣がぶつかり合う金属音。

立ちすくむ私の目の前に人ではない何かの巨大な影が立ちふさがる。

頭では逃げろと言っているのにまったく体が動かない。

もうだめだと思った瞬間ドサリという音とともに目の前にあった影がきえさって

代わりに私を見下ろしていたのは私よりも少し大人びた少年の顔。

「もう大丈夫だよ」

そうやって私に手を差し伸べてくれた。

けれど私は恐怖から抜け出せなくて口もきけずにただ座り込んで

その少年の顔を見上げていた。

やがて少年は「もう終わったから平気だよ」と言い残して私の前からいなくなってしまった。

あれから彼には会っていない。おそらくたまたま冒険の途中に魔物の襲撃に出くわして私を見つけてくれたのだろう。

私は彼にお礼もなにも言えなかった事がどうしても気になって仕方がなかった。

そして私は彼に会うために冒険者になる決意をし旅に出る。

どれくらいの月日が経っただろう、日々苛烈になってくる冒険生活は私の耐えられるものではなくなってきていたのだ。

そしてついにその日はやってきた。

私は魔物との戦いで力尽きた。

彼に逢いたい一心で各地を回って歩いたけれど

最後まで彼の噂も手がかりも掴めないまま。

彼に逢いたい

逢ってあの日のお礼を言いたい…

あの日彼がいなければどの道私は今まで生きてはいなかったのだから。

けれどもう私は彼にお礼をいう事はなくなってしまった。

もしかしたら彼もすでに冒険をしていないのかもしれない。

どこかで私と同じように力尽きているのかもしれない。

けれどどうしても彼に一言

ありがとう

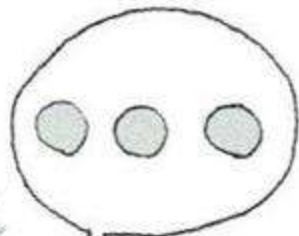
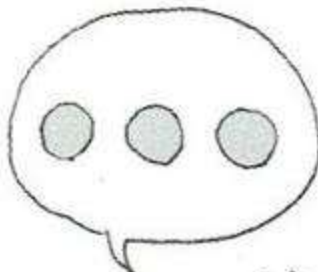
と伝えたい。本当はすごく嬉しかったんだと。

逢いたい・・・

お願い・・・もう一度だけ・・・私を・・・

—…彼に逢わせて…—

暇ですね



し〜...

だな...

描いてるヤツキぬいて
ますね...

及してやりたいぜ...

ナヤ...

ドクドクしよつこも

なんかねえのかよ

ん〜

ん〜

人がいねえし...

古木の枝が
ありました

このお前

ドロちゃんかよw

おっ

いいじゃん

強い頼むぜ？

ポリンとかだったら
お前死刑なw

任せてください

こっに見えても

枝運はいいんですw

ではさっそく

ほんとかよw

アイ





たつぷり
遊びましょう

分かるでしょう？
私達に勝てない事くらい
本能で感じますよね？

やだっ

いつも
浮いているだけ
あって軽いですね

いざっ
離っ

そのまま

ソヒーさんの
おまんこはいけ〜んw

いざっ

見ないでっ！



おっ

アガヤヒロコ。シラケ
アハヤキキスス

すぐ取へ
アハヤキキス

あっ
おっ
アハヤキキス



あっ

あっ

うんっ



あっ

んんっあっ

あっ

あっ

あっ

あっ

あっ

あっ

あっ



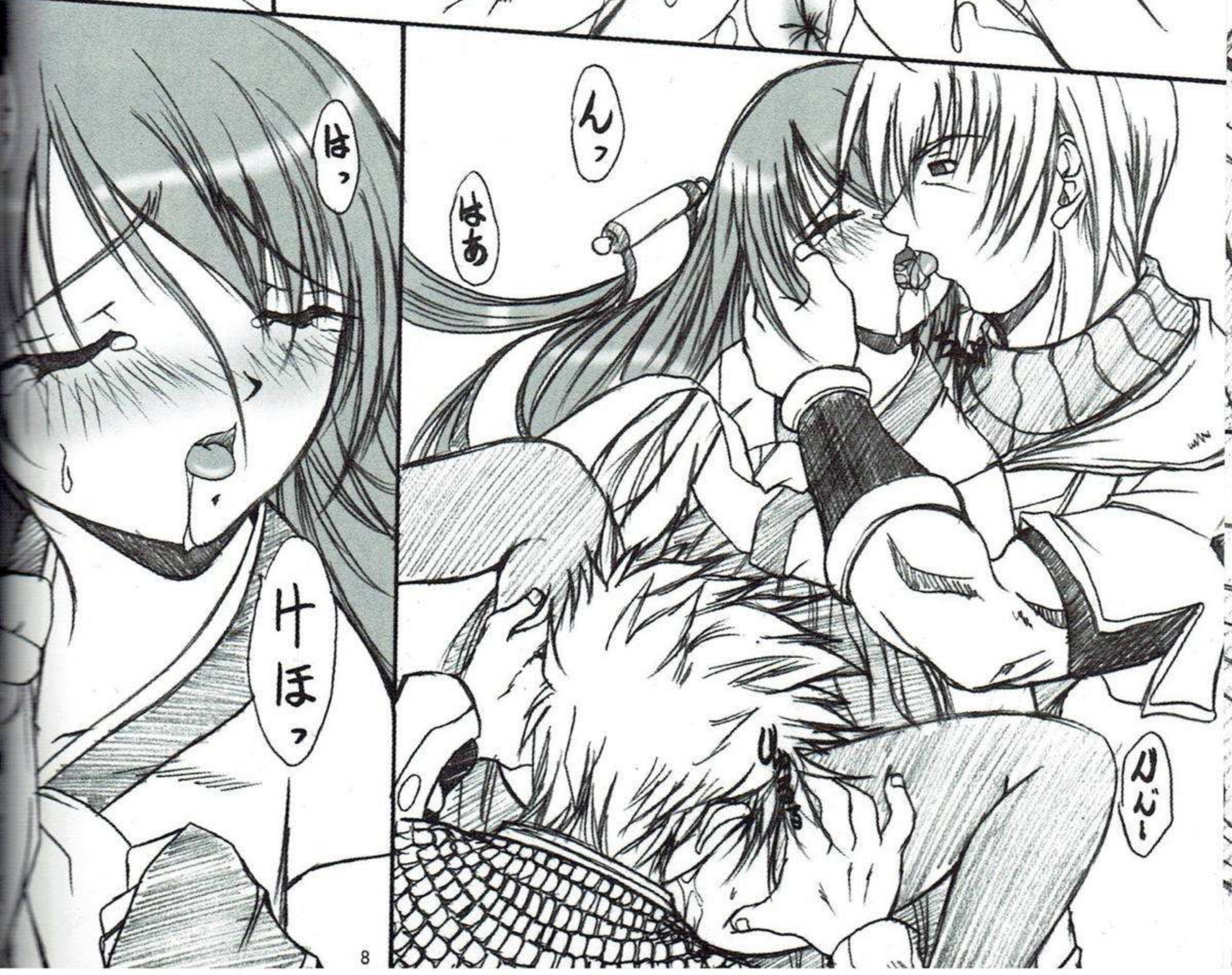
何だよテメエ
嫌がつてるわりに

グチャグチャに
してんじやねえか

いやっ
言わないでっ

ああっ

くはっ
あ



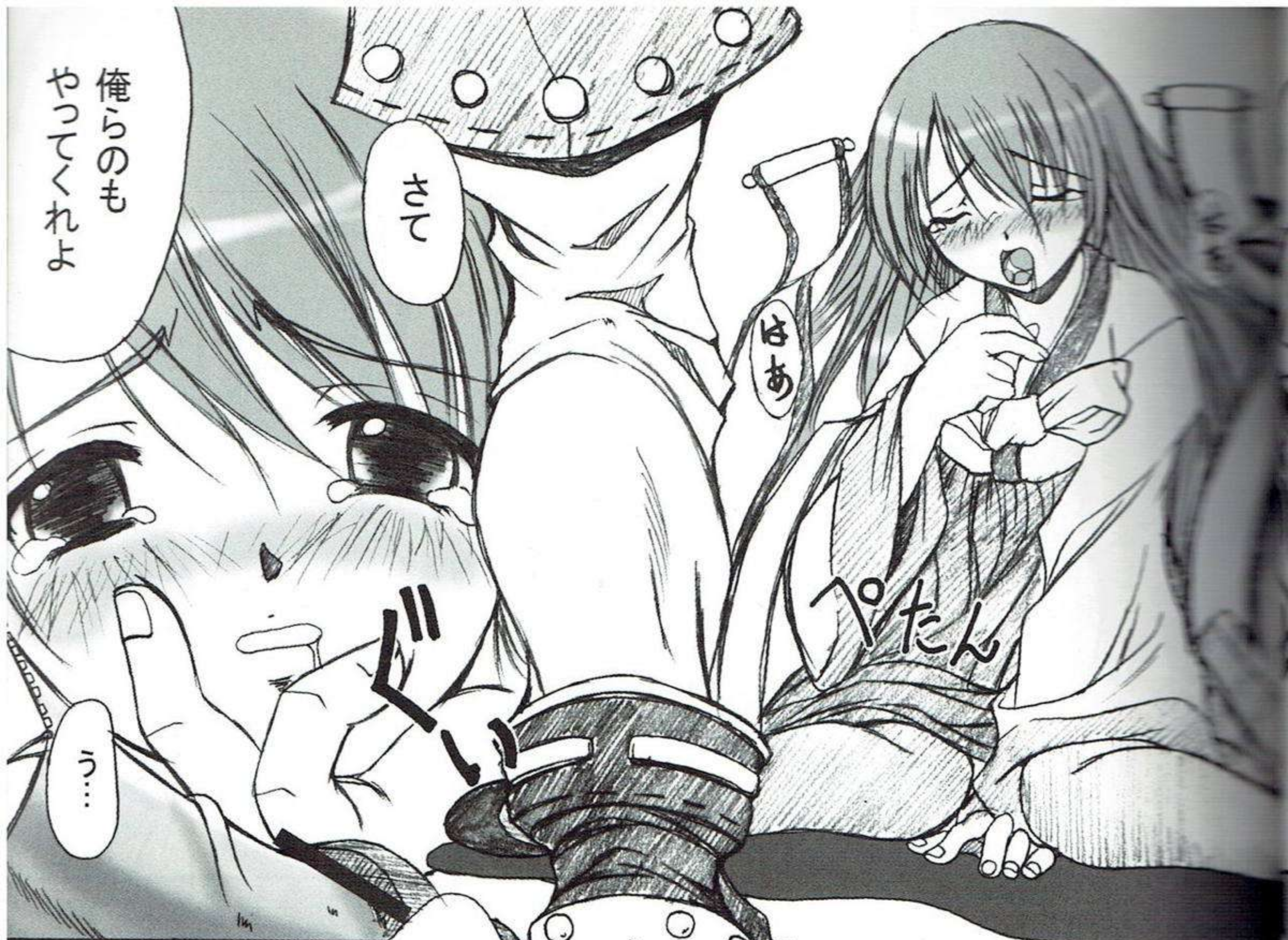
うん

ん

はあ

は

はほ



俺らのも
やってくれよ

ちっ

はあ

たん

う...

俺ら
デリケートだからよw

あつてへんわ...



んっ

ん

んっ

はあ

はあ

おらっ
手やすめんじや
ねえよ

舌にもちやんと
仕事させまじようみ

こほっ

んほ

ちゅ

はあ

ちゅ

口...

ひゅ

んっ

意外にも
上手ですね

はあ

ん

ん

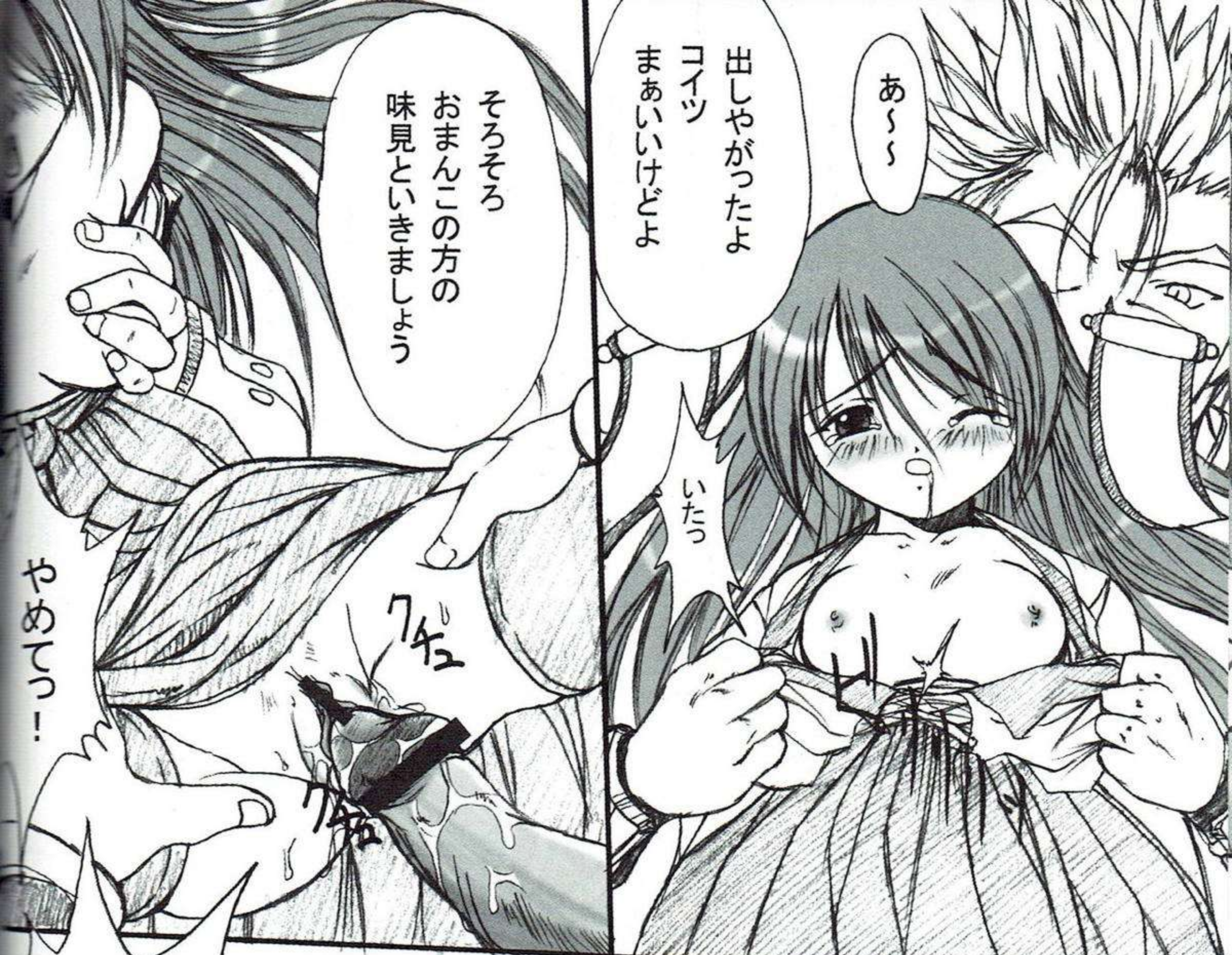
ん

ん...

気持ちいいですよ







あゝゝ

出しゃがったよ

コイツ

まあいいけどよ

そろそろ

おまんこの方の

味見といきましょう

いたっ

742

やめっし...



止めると
思いますか？

ああああっ

やあああっ

はあ

しゅん

すん

はあ

んあ

あ

少しひんやりしてて
実にイイですね

はあ

やあ

ん

おっ？マジかよ

あああ

んは

すん

しゅん



うあああ

そんなに
突いちやダメえ

舌を出しなさい

はあ
ひゃ
はあ

やあああ

んああ

け
け

はあ

はあ

はあ

はあ

お前ばっかじゃく
代われよな

はあ

おら

おら

んっ

あん

仕方ありませんね

んっ

ちるんっ

おら尻上げろ
今度は後ろから
突くからよ

あう

はあ

はあ

はあ

んっ





「じちも
まだ満足
してませんよ

「じゃいっ

キユウキユウ
だぜ

んんっ



おくっ…
奥にあたってるっ

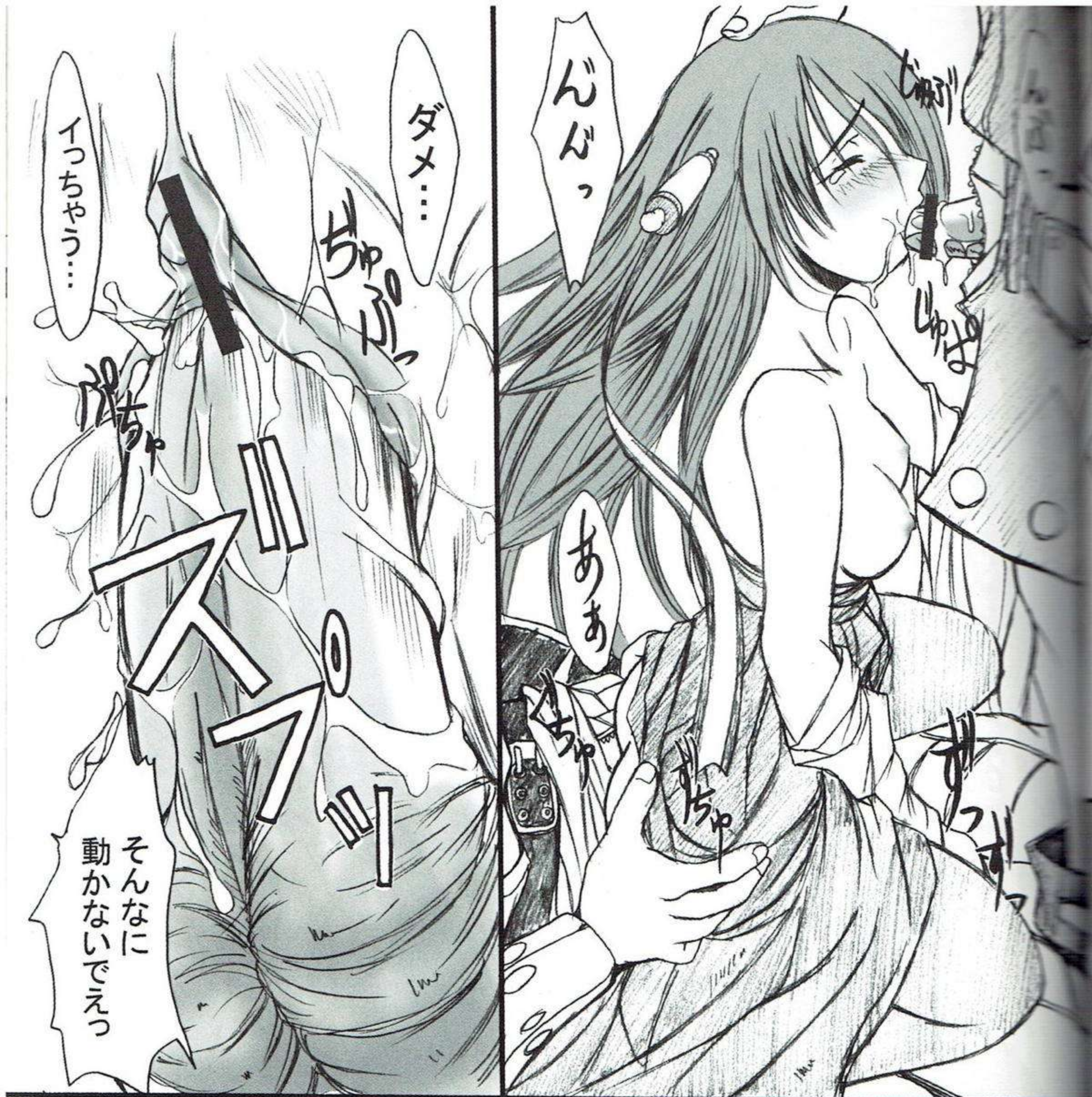
やあああっ…!

ぐちゃ

んあっ

はあ

はあ



イっちやうし...

ダメ...

ちゅっ

んんん

あぁ

そんなに
動かないでえっ

俺の精液たっぷり
中出ししてやるぜっ

私も限界ですか...



!! JENEE

ク
ク
ク

ひやあひん

ひん

ク

ク

ク

ク
ク
ク

しっかりと楽しんだし

ほあ

やっど...

そろそろいいか？

そうですね

ほあ

んじややるか

そうじまじまじ

開放される...？

アッ
ッ

知...

う...そ...

ち...め...

純潔の小太刀

……さびも……

クックック……

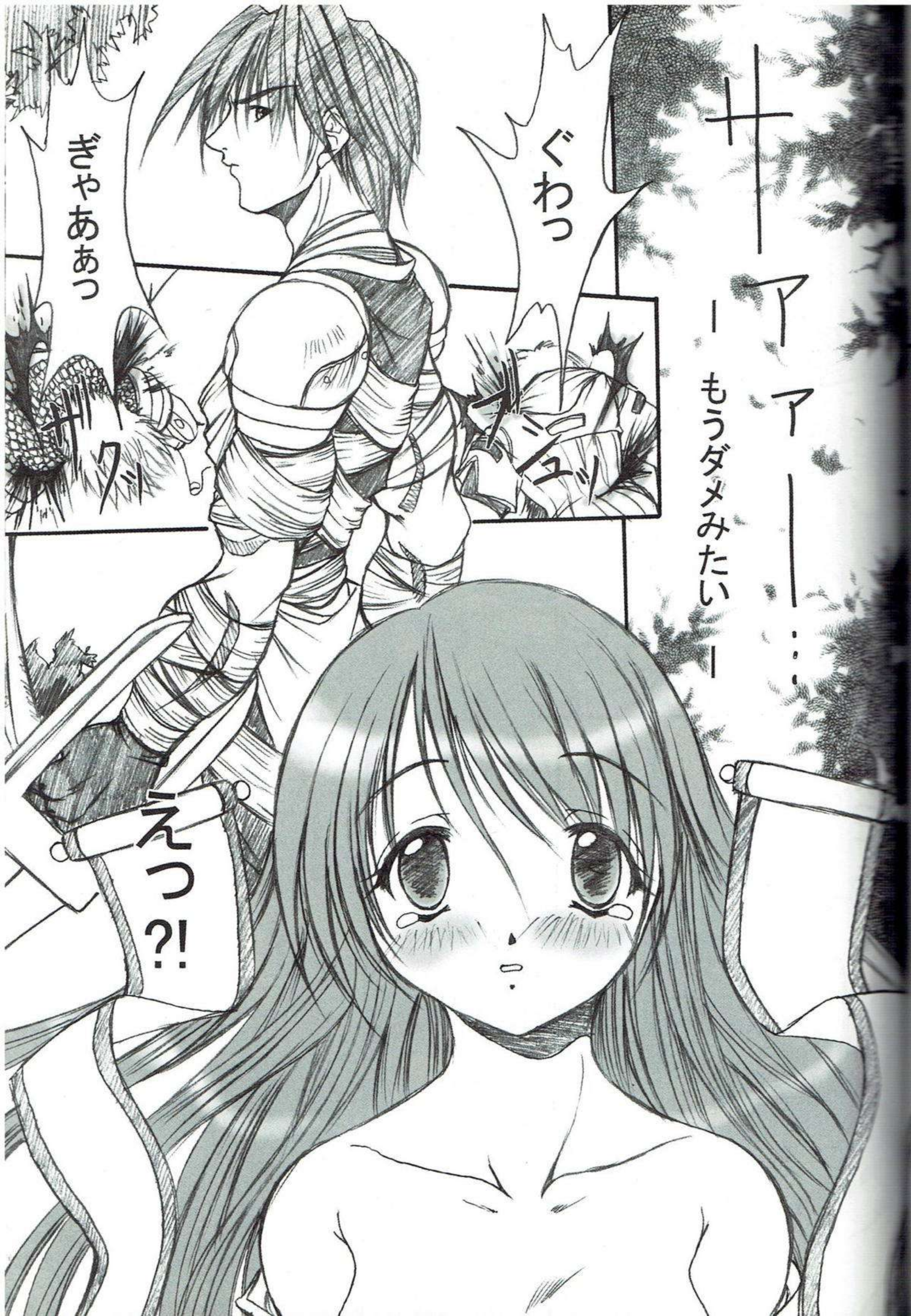
「これでいいよ」

「こいつは
俺らのオモチヤW」

ああ……

も……

……逃げんな……



ぎゃあああ

ぐわっ

もうダメみたいー

アアア

えっ?!

すまない…

……

事情は…

その姿から容易に
察しがつくよ…

……



この人…



かが
かが

だけど…
人間のすべてが

きみを
辱めた者の様では
ないと信じて…

って…

無理だよな…

さあ
早く行きな
今度は変なのに…

まひっひっ…



この人なら…





はっ?!



「I」のRだ...

私を貴方の物にしてください...



あの...



私...死ぬ前にどうしても逢いたい人がいて

強く強くそう
思っていたら魔物に
なっちゃったみたいで...

だけど戦い方を
私知らなくて.....

それに…

大切な人が誰だったのか

自分の名前も…

思い出せないのっ！

なんでも
しますから…

お願い連れて行って…



ペントはダメだ...



そっぴですよね



私みたいなの...

あはは...

ごめんなさ...

けど



仲間

としてなら
歓迎するよw

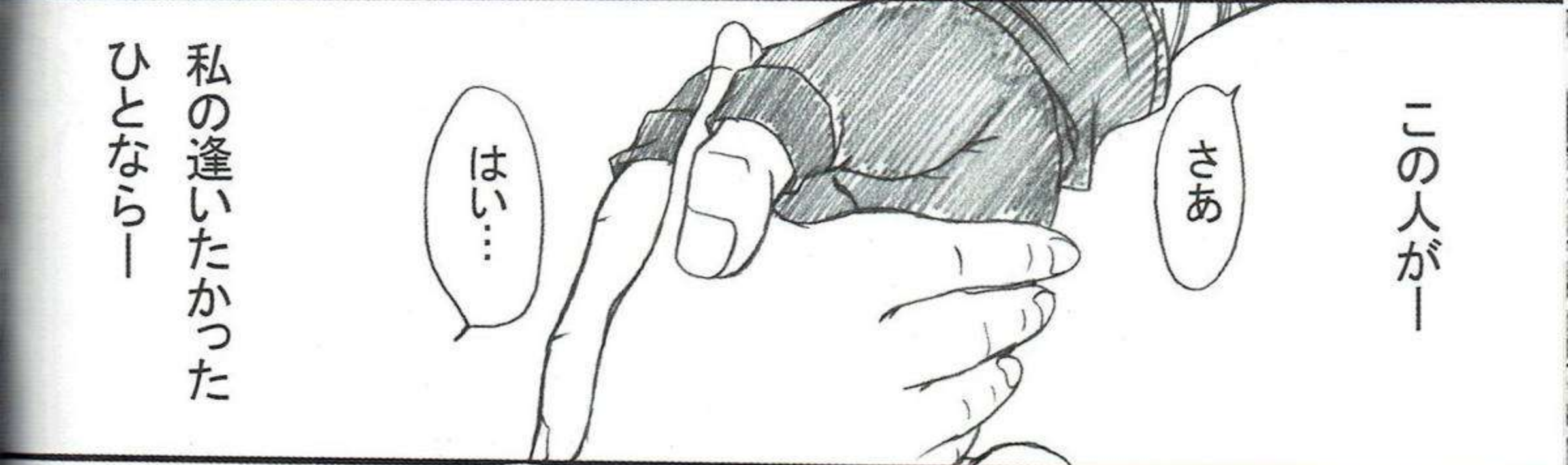




仲間……？

私に……？

ほっ
てる

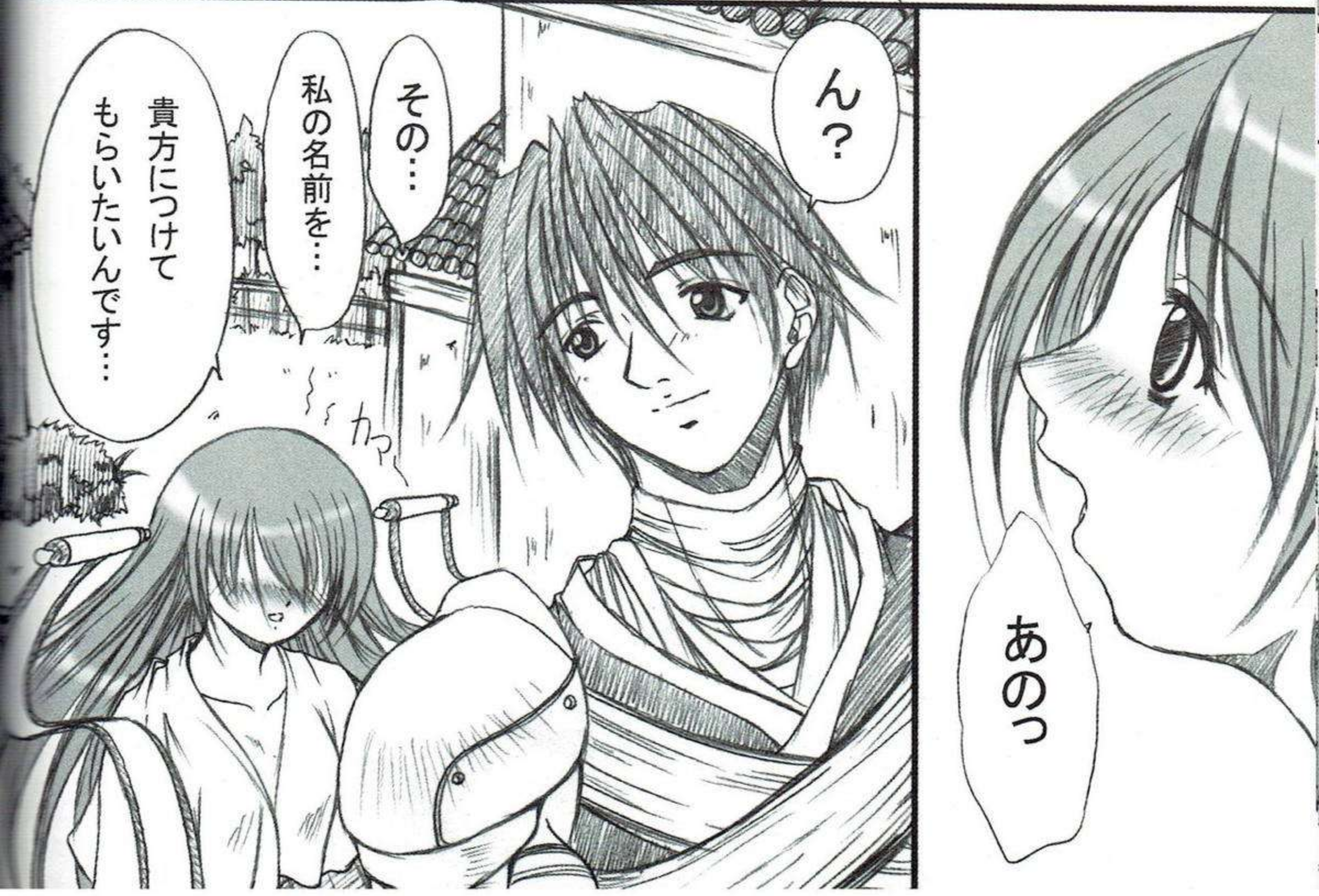


この人がー

さあ

はい……

私の逢いたかった
ひとならー



ん？

あのっ

その……

私の名前を……

貴方につけて
もらいたいです……

えっ？

だっ

俺…
どうなの？

ムムム

…

じゃあ

繭

これから綺麗な
蝶になるんだって
意味で繭
…どうなの？

ありがとう

よろしく
お願いします

初めましてMIOと言います。

このたびは「陽炎 弐」を手にとって
頂き本当にありがとうございます。

前回の「陽炎」からROの成人向けで
活動させてもらっているんですが

RO本二冊目となるこの本では前回
よりも本文の量を増やしてみたんですが
なかなか思うようにまとめられなくて
最後の最後までバタバタと作業すること
になってしまいました。

前半で速めに取り掛かったにも関わらず
結局ROで遊んでたりで締め切り
ギリギリの完成に… (汗

この文章を打っている現在で実はまだ
表紙が描けてませんT_T

ま・・・まあとりあえず出来ているんだ
という過程でお話を (マテ



で、ここにあるのは見たら分かるんですが
ネームです。(分かってるっての)
私はこんな感じでネームをきってから
下描き→トレスって流れで描いています。
ネームの段階である程度決まっていなくて
想像力の乏しい私はいざ本番ってなっ
ちゃったときに「ここどうしよう…？」で
改めて考えてしまう事になってしまうんです
だからけっこうごちゃごちゃと「あーでもな
い、こーでもない」と線引いちゃってます…
ついでにこれ見るとアレなんですネームと
完成版とでキャラが大分違ってしまってます
実際のところハンターではなくアサシンだっ
たんです。ところが描いていくうちに
同じアサだといざ最後にアサが助けても





出てきた瞬間に別の人間に助けられてるというのが分かり辛いだろうと思ったわけです。同じ格好だと髪型とかでしか判断できませんし、なによりパニックになりかねません。一時的にでもテンポを殺すのはちょっとどうかと思ったのでハンターにしました。えっと、ここでひとつ言っておきたいのは、別に私は騎士とハンターが嫌いだってわけじゃないのでそのあたりは誤解のないようにお願いします（汗）確かにアサシンひいきではありますがBOTでもないかぎり職によって好き嫌いは無いので…。それから上のネームは幻となったページのネームです。本当は漫画部分がもう1Pあったんですが、これ、本編のHシーンラストと酷似してるんですよ…「お前描いたんちゃうんかい」って突っ込まれたら何も言えませんが、きっとあわててネームをきったので酷似してることに気づかなかったようです（死）下描きしてて気づきあえなく削除となった次第です。はっきりいって気づいた時にはもうページの都合とかも決まっていたので慌てましたよ…。

て、気づいたら今度は行が無いですね…えっと次回はプリ×アコで行く予定ですのでまた目にする機会がありましたらどうぞよろしく願いいたします。また次回の本でお会いできれば幸いです。



陽炎 弐

発行日 2003, 11, 03

発行サークル
FASTEST LAP

発行責任者
MIO

〒740-0011
山口県岩国市立石町1丁目3-9
近藤アパート202号
豊川慎之介

<http://www7.ocn.ne.jp/~amagir>
amagir@proof.ocn.ne.jp

印刷
大陽出版株式会社様

RAGNAROK ONLINE

陽炎

-KAGUROU-

弐

-2-

FASTEST LAP



FOR ADULT ONLY

